

スペイン バレンシア州ではアボカドがカキに取って代わる

[FreshPlaza 2025年10月22日](#)

バレンシア州ではアボカドの栽培が着実に拡大しており、次第に伝統的作物であるオレンジや、近年ではカキに取って代わりつつある。カキは国際的には依然として人気があるものの、カイガラムシの防除の難しさや生産費の高さにより栽培面積が減少している。

ロホブリランテ品種のカキの発祥地であるスケール川流域では、一部の生産者がカキ農園を熱帯果実に転換しており、特に温暖な地域においてこの傾向が顕著である。「スケール川流域のカキ」原産地呼称管理団体の長であるシリロ・アルナンデス氏は、「アボカドは現在の流行りで、特定の地域ではカキにとって代わっている。ラリベラ地域には既にアボカドを栽培している農場もある」と述べた。

農業省の栽培面積及び収量調査(ESYRCE)のデータによると、2019年から2024年の間にカキの栽培面積は10.7%減少し、アボカドの面積は174.5%増加したと報告されている。実数では、カキの1万4,219ヘクタールに対し、アボカドは3,994ヘクタールである。

アボカドの拡大に伴い、その水需要に関する議論が再燃している。しかし、アボカド生産者協会(Asoproa)は、アボカドの水需要は柑橘類と同程度であると主張している。同協会のメンバーであるアレハンドロ・メリア氏は、「両作物とも、1ヘクタール当たり年間4,500〜5千立方メートルの水を必要とする」と述べた。

同氏は、柑橘類は1ヘクタール当たり約35トンの収量があるのに対し、アボカドは約12トンであるが収益性は高いと言い、「アボカドの生産者価格は1kg当たり2.20〜2.40ユーロで、病虫害防除の処理が少ないため炭素排出量も低い」と付け加えた。

出典: valenciaplaza.com

香港 中国本土産ブドウを日本産と偽った販売業者に罰金

[FreshPlaza 2025年10月23日](#)

香港の果実卸売兼小売業者が虚偽の原産国表示のあるブドウを所持及び提供したとして、九龍城下級裁判所から罰金3万6千香港ドル(4,600米ドル)を科された。同裁判所はまた、商品説明条例違反と認定されたブドウ97箱(485袋入り)の没収を命じた。

この事件は、地元で販売されていたあるブランドの包装されたブドウに誤認を招く原産国表示があるとの情報を香港税関が受け取ったことから始まった。包装には原産国として「日本」と記載されていたが、当局はこれらのブドウが中国本土で栽培されたものではないかと疑った。

調査の結果、税関職員は油麻地果実卸売市場で営業する業者にたどり着いた。試験購入の際、業者はブドウが中国本土産であると口頭で認め、印刷されていた「日本」の表示と矛盾した。この不一致により、当局は法的措置を取り、推定市場価格約3万7千香港ドル(4,740米ドル)相当の商品を押収した。

税関当局は、広く一般の業者らに対し商品説明条例の遵守義務について改めて注意を促し、消費者に対しては信頼できる店舗から商品を購入するよう呼びかけた。

同条例では、虚偽の説明を付した商品を販売目的で所持または供給することは犯罪行為とされている。有罪となった場合、最大で50万香港ドル(6万4,100米ドル)の罰金及び最長5年の拘禁刑が科される。

一般市民は、違反が疑われる行為については既存の通報窓口を通じて報告するよう奨励されている。

出典: Dimsum Daily